

まえがき

拙著を手にとっていただき、ありがとうございます。

私は今年、五十歳になりますが、自身の半生を一言で言うならば、テーマは「The 逆境」だったなと思っています。

困難な状況など誰も経験したくないものですが、かえってそれが、今度生きる目的に置き換えられることが多々あります。そして、そこから逃げずに立ち向かうということが、問題を解決するだけに留まらず、己を鍛えて大きく飛躍する結果につながるのです。

最小の存在であればあるほど、最大の逆転劇をつくり出せる……と信じています。そしてそんな最小の存在だと自己過小評価されている方に、この拙著を読んでいただきたいと思っています。

私の不運は、生まれ落ちた環境にありました。

いわゆる親ガチャです。母親の酒乱、離婚・再婚、DV、障がいに悩まされました。昔はほど一人親家庭の数も少なかったですし、児童相談所もマスコミも、手厚い対応や話題性がなかったように思います。

私には、いつも影がつきまとっていたような感覚があります。そして、母がきっかけでどこか人を信じきれないことと、信じすぎて騙されてしまう両極をいったりきたり。結局、家の外での人間関係もうまくいかず、常に孤独を感じていました。ただその分、たくさん自分と向き合い、自分自身について考える時間を与えられました。それが起業をしたり、テレビ、ラジオに出演したり、ベトナム公演をしたり、この著作につながったり、他の人とは違う少々ユニークな道を歩むことになったのかもしれない。

おそらくこれは、普通の家庭出身であつたら、そうはなりづらいこと
だったかもしれません。また私が母ではなく、父に引き取られていたら
まったく違った人生、幸福かどうかはわかりませんが、平凡な人生を送っ
ていたと思います。どちらかというところを希望していますので、そ
れは来生に期待するところです。

そんな私の半生を綴らせていただきました。似たような境遇だった方
もそうですが、自分に自信が持てない方、逆転劇を繰り出したい方にぜ
ひ読んでいただき、ともに日本を良くしていくことができれば幸いです。